

表紙の人

1月10日、広川町消防出初式で、今年で8回目となる馬簾回しが一年の無事故・無病息災を祈念し行われた。披露したのは、



各分団から選ばれた代表6名。

【第一分団 野中李成・第二分団 進雅史・第三分団 丸山和久・第四分団 黒田康裕・第五分団 野田誠也・第六分団 山下靖晃】

(敬省略)

天候に恵まれたとはいえ、真冬のふんどし姿、各選手の気合がほとばしる勇壮で、すばらしい演技だった。

選手に感想を聞いてみると、「最初に桶の水を頭からかぶるときは、全身が凍りついて無心になる。本番までに2〜3時間の練習を4日間行った。最初の練習から息がぴったりあって、仲良く楽しくできました。」とのことだった。

馬簾回しの起源は、江戸時代に火事現場で火消し棒を振って



消火活動の目印にするにとともに、火消したちの士気を鼓舞する意図もあつたらしい。

今回の馬簾回しを見て私たちがも防災への意識を高め、災害に強いまちづくりを進めなければと、心新たにしたい。

お知らせ

傍聴席は、あなたをお待ちしています。

次の定例会は、令和4年3月8日開会の予定です。

日程については、HPをご覧ください。議会事務局にお尋ねください。

議会事務局直通
0943-32-0109

編集後記

子どもの声に耳を傾けて

コロナ禍、学校での過ごし方や行事、特別活動は子どもたちの意見は聞かず一方的に決められたという印象を受けた。

ある学校では、「運動会をやりたい」という子どもたちの願いについて議論を重ねた。その校長先生は「子どもたちが仲間に見えた」と言われた。大人の価値観で決めるのではなく、子どもの声を聞いていかに聴く、そして、話し合いを重ねる中で民主主義が子どもにも根付いていくと考える。

例えば、「校則」はどうだろう。本当にそこまで細かく規定する必要があるのか。子どもたちは、大人の価値観で考えた校則をそのまま受け入れていないか。「制服」はどうか。近隣の自治体では、子どもたちの声を聞き「制服の選択制」が進んでいる。

子どもたちは、声を聴いてもらうことで、本来持っている力を発揮する。そして、その力は、未来の広川町を創っていく。(江藤記)

議会広報調査特別委員会

- 委員長 梅本 哲
- 副委員長 江藤美代子
- 委員 山下 茂
- 委員 丸山 幸弘
- 委員 水落 龍彦
- 委員 池尻 浩一